愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	教育実習Ⅰ（幼稚園）		
担当者(Instructors)	梶浦 恭子,後藤 永子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	4	必修・選択(Required / selection)	選択
実務家教員科目(Pro teacher course)			

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

幼稚園の保育全般に4週間参加し、教育実践を通して教職意識を向上させる。園児の年齢的発達の特徴を知り、援助方法を実際に体得する。初期の観察、中期の部分参加実習を経験した後、最後に研究実習をおこなう。その間、保育環境の詳細や園の構成職員の役割を知るとともに、保護者との関係を円滑に持てる諸方法も学び、教職の幅広い意味について問い直す。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	実験・実習
授業の方法(Class method)	実習の形式でおこなう。幼稚園教員から常に指導を受けながら、同時に大学教員も訪問指導や諸問題には適宜に助言をおこなう。
当該科目と実務との関係(Relationship between cource and practice)	子どもの笑顔が生み出せる遊び展開の工夫はどうあるとよいか、子どもが何かに一生懸命にやりたくなる気持ちがもてる興味・関心はどこにあるか、自分から「こうしたい」気持ちが自分の言葉で主体的に動き、言える環境づくりとは等、指導案指導、記録記述における援助、言葉のかけ方の具体や、実際を踏まえた保育実践に対応する。技術指導だけでなく、人としての振る舞い、他者を受容できるしなやかな適応力を持ち合わせる人間形成に配慮し励まし実習に送り出し、現場に求められる人材養成に努める。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	観察実習による園生活の実体験（個人・クラスの動き、先生の動き）と実習記録	・園の概要や事前指導を基本に園長、指導担当の助言から流れをつかみとる ・自己紹介やアイスブレイクを取り入れ実習環境を整える	□
第2回	観察、参加実習による園の役割や園のさまざまな環境の理解	・先生の手伝いや幼児の遊びに参加し園の特徴を知り理解に努める。 ・幼児の興味・関心がつかめるよう関わり実態把握内容を記録する	□
第3回	観察、参加・参与実習や担任との反省会による園生活の理解と、実体験（個人・クラス全体、先生の動き）による実習記録	・観察から部分参加、参与実習へと移行する。・実習生の疑問は質問し幼児の生活理解と実践に活かす・クラス全体の遊び傾向や個人の興味・関心を理解し、課題や視点を持って観察し、事実に即して記録する。	□
第4回	参加・参与、部分実習による園生活の理解と先生や子ども理解	・個人、クラス全体の幼児の遊びや生活場面の動き理解のための記録をする。先生の言葉かけや関わり方を理解するために尋ねて（なぜそうするのかを）記録する。・幼児の興味・関心を理解した上で、部分実習に向けた指導計画案を作り早めの実習の1週間目に3案持って相談する。	□
第5回	観察から参加、参与、部分の実習へと園全体理解と先生や子ども理解 園長や担任指導による反省会	・実習目的、課題に対する達成度（子ども、先生の仕事理解）の確認 ・新たな課題は見つけられたか（意見、疑問、質問の整理をする）	□
第6回	部分実習（手遊びと絵本）の体験 指導計画による知識・技能の確かめ	・中期は部分実習の指導計画を実践し、知識・技能を確かめる ・省察と課題　・大学教員の訪問指導と取り組みの報告	□
第7回	部分実習（昼食の時間、帰りの会）の体験	・部分実習の指導計画を実践し基本的技術（話法・保育形態）を実地に即して身につける。・展開の省察（自己課題追及）と今後の課題（自己分析と先生から改善ヒント）	□
第8回	部分実習（朝の会、昼食の時間）の体験	・指導計画（導入、援助方法、子ども理解）を実地に即して身につける。計画による展開の省察と今後の課題をまとめる。記録整理と自己課題を立てる。	□
第9回	部分実習（帰りの会　例：ペープサート表現15分～20分程度）の体験	・保育内容「表現」と子どもの発達の省察（自己課題追及）と課題（改善ヒントの受容）・まとめの記録整理をする。	□
第10回	部分実習（クラス全体の会　例：造形遊び30分～40分程度）による体験	・保育内容「造形」と環境構成の省察（自己課題追及）と課題（改善ヒントの受容）・まとめの記録整理と明日の保育展開へのつながり	□

第11回	9月実習の一日実習（研究実習）を体験するために練る、試す（教材への挑戦）、実践する	・実習内容を総合的に担当の先生と密に検討して計画的に指導案作成をする。	□
第12回	一日実習（研究実習）体験のための①教材と幼児理解の研究　クラス全体の遊びの傾向を記録から探る	・一日実習の指導計画立案は、各自に前もって調べて学習を進めて作成しておき、クラスの実態に合わせて検討した後、指導を受ける	□
第13回	一日実習（研究実習）体験のための②幼児理解の研究　個々のエピソード記録を探る	・一日実習の指導計画立案における個への留意や配慮は、計画書には詳細の記述はしないがデリケートで大切な密案となる。クラスの実態に合わせて個人の対応は思考して練り、指導を受ける	□
第14回	一日実習（研究実習）の体験のための③先生の援助方法の研究　クラス全体と個々へのアプローチ	部分実習そして一日実習の指導計画立案は、幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、実践する。	□
第15回	実習を終えるにあたり自己課題の評価とまとめ	「実習を終えて」園環境（教職員、地域や保護者の人的環境と遊具、資源等の物的環境）から職務内容を理解したか等の学びと、教職実践に就く意味について自己分析する。大学用の「‥終えて」「報告書」整理。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

実習の日の活動を振り返り、メモ書きで書き取った取り組みを記述する。見直し翌日の課題を作成する（2時間）。指導担当者からの助言も踏まえながら、翌日の実習に備えて新たな課題と計画を具体的に検討する作業を２時間おこなう。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題に対するフィードバックは、実習園の指導教員から、個別指導される。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018子ども発達DP1	保育者としての仕事の内容や責任を実地に理解することができる。 保育者の技能（ピアノ、絵本、手遊び、ペープサートなど）を磨くことができる。
	◇ 2018子ども発達DP2	実習日誌、指導計画の適切な書き方を習得することができる。幼児理解に伴う配慮・留意事項を思考しながら実践力を体得している。
	◇ 2018子ども発達DP3	発達プロセスの実際に触れることができる。参与観察の多様な言動に、幼児の内面理解を追求し関わる力を実践から習得することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
				100%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

①実習園の評価（70）、②訪問指導時の評価や各種提出物、実習日誌の評価（30）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	幼稚園教育要領	
2	幼稚園教育要領解説	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		

2		
3		
4		
5		